



巖
神
青

会長就任挨拶

第三十三代会長

田村寛仁



先づ以て、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げますとともに、来たる令和十五年に執り行われる第六十三回式年遷宮におかれましてもいよいよ山口祭、木本祭が執り行われ恙なく進められておられますこと誠に慶賀に存じ上ります。

常日頃より岩手県神社庁様をはじめ、先輩諸兄姉並びに

係各位におかれましては岩手県神道青年会に対し、多大なるご指導とご鞭撻を賜つております事に心より御礼申し上げます。

去る令和六年十二月二日、臨時総会に於きまして、会員の皆様からのご承認を賜り、第三十二代会長の重責を担うこととなりました。

昭和二十四年創立以来、六年という長きに亘り先輩諸賢が紡いでこられた志と歴史、伝統の重みに身が引き締まる思いでございます。元々浅学菲才の身ではございますが、会務に全力で取り組み、会員の皆様と共に一丸となつて様々な活動に邁進し、斯界の興隆に努めて参る所存です。

また、国内外の情勢も不安定と言わざるを得ない中、本年は大東亜戦争終結より八十年を迎えます。国のために、そして家族の為に自らの命を賭して出征された数多の方々の思

ひと苦難、戦地で散華された英靈たち、國柄を守り、焼け野原となつた国土の復興に尽力され、更には平和を維持された先人たちの努力、戦火に見舞われることなく平和を享めとした行事も、従来の形に戻りつつあるとはいえ、一度

希薄になつた他者とのつながりを結びなおすことは簡単ではなく、なかなか以前の形に戻すことが難しいというのが実情のように思われます。

古くは神社や伝統行事を通じて人々が結びつき、地域社会が形成されておりました、人ととのつながりが希薄になりつつある現代において地域のつながりを強くし、伝統行事ひいては地域社会を存続させるための活動が求められると感じています。

努力のお蔭であるという事を、我々青年神職だけでなく、多くの人々にも見つめなおす機会とすべく、靖國神社、護国神社への参拝、各種研修はもとより、対外的な周知活動も進めて参りたく存じます。

令和六年元日に発災した「令和六年能登半島地震」は被災地の道路状況など、様々な点で復興支援活動を思うように展開することが出来ず、忸怩たる思いを抱いています。

そのような中、令和六年五月に先遣隊として輪島市にて被災地支援活動をさせていただきました。その際には岩手県神社庁様のご支援を頂きまして改めて感謝申し上げます。平成二十三年の東日本大震災の発災直後、まだまだ余震も頻発する中、一番に支援の手を差し伸べてくれたのは北陸の青年神職の皆様であつたと伺っております。そして、全国各地からの手厚いご支援を賜つたことに対する感

謝とそのご恩に報いたいとう思いは、今なお強く会員一同の中に根付いています。県内においても、ようやく震災から立ち直りつつあつた大船渡市を山林火災という災禍が襲いました。簡単ではない復興の道を歩み進める被災地に方々に対し、祈りだけではなく活動を通していよいよ実践に努めて参りたく存じます。

何事も守り伝える為には、行動が不可欠であります。その先端を担うべきは我々青年神職であり、会員一同研鑽を積み、常に課題・問題を見直し、我々にできることは何かを考え、祈りと共に行動に移す「斯界の尖兵」として会務に力を尽くす所存です。

先輩諸賢の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご指導を賜りますようお願い申し上げまして会長就任のご挨拶と致します。

田村会長期新体制決定(令和七・八年度)

会長	紫波	田村 寛仁	地区委員 盛岡市	西館 徳史
副会長	江刺	阿部 敏宗	花巻	吉田 豊
常任委員	久慈	新里 智紀	北上市和賀郡	小田島崇道
北上市和賀郡伊藤しづか	西磐井	小野 宏之	西磐井	伊勢 昂矢
北上市和賀郡菊池	氣仙	熊谷 典昭	東磐井	荒澤 雄翔
北上市和賀郡菊池	上閉伊	佐々木浩明	氣仙	千田 和典
九戸郡	多田 明訓	上閉伊	宮古市下閉伊郡	高橋 德東
宮古市下閉伊郡西館	工藤 慎一	眞澄	二戸	山本 雄麻
宮古市下閉伊郡西館	谷藤 大典		宮古市下閉伊郡	佐藤 史大
宮古市下閉伊郡上澤	鈴木 稲田		富田	奥山 淳澤
山根	翔太郎		細越	大和 智行
西館	和成	典英	戸田	大和 祥元
盛岡市	長谷川 悠			
監事 盛岡市	藤原 和修			
顧問 盛岡市				
常任・地区委員 九戸郡				
事務局長 盛岡市				
事務局次長 宮古市下閉伊郡上澤				
書記 宮古市下閉伊郡上澤				

会長退任挨拶



第三十二代会長

谷 藤 大 典

先づ以て、謹んで聖寿の万歳と
皇室の弥栄をお慶び申し上げ
ますとともに、神宮におかれま
しても諸祭恙なく御斎行の由
を承り、慶賀に存じ上げます。

顧みますれば 当会は昭和
二十四年三月、先の大東亜戦争
の敗戦後、国土と国民は慘憺た
る打撃を受け、その後の占領政
策により人心の荒廃も著しい
最中先輩諸賢が国家再興と皇
統護持の決意のもと優れた叡
智と篤い情熱を結集して創立
されました。とくに十一月の活
動では富山県神道青年会の皆
様とも共に汗をながし親しく
谊を結ぶことが出来ました。

輪島への出発前先輩神職のひ
とりから、十四年前、石川神青
が東日本大震災後すぐに雪道
のなか、トラック一杯にガソリ
ンを積んで駆けつけて戴いた
話を伺いました。その上で臨
んだ往復一、六〇〇キロメート
ルの旅路は、私自身、今でも忘
れることが出来ません。

この五年を振り返ると、新
型感染症の感染爆発により日
常が一変、暗い閉塞した日々が
始まつたことは今更申し上げ
るまでもありません。当会にお
いても事業の中止決定がいつ
しか活動になりかけ、ひたすら
無念のときを過ごしました。
そんなとき新たなこころみと
して、教職兼業の青年会員を導
入とした公立中学校における
「装束着装体験講義」を実施し
ました。これは社会科歴史の平
安時代の衣・食・住について、
青年神職が教壇に立ち講義し
中でも衣に焦点をあて、会員各
神社の装束を用いて解説、實際
に着装を体験してもらう活動
です。令和三年十一月より本
までに県内公立中学校七校
受講生徒約七〇〇名の実績は
大きな自信となりました。

また神道政治連盟岩手県本
部青年隊においては、歴代隊長
をはじめ先輩隊員から現在に
至る活動が認められ、昨年三月
に自由民主党青年局より表彰
の栄を賜りました。あらためて
先輩諸兄姉のこれまでの御勞
致します、全国役員の皆様、そ
して東北六県神道青年協議会
会長 大鳥居良人様をはじめと
して東北六県神道青年協議会
をうけ、協議の末、創立七十五
周年式典の延期を決定しまし
た。十四年前に東日本大震災を

経験した当県青年神職として
被災した仲間達の心境に思
いと、篤く御礼を申し上げます。
大きな喜びの一方、先日来当県
気仙支部における山林火災は
大きな被害をもたらしました。
神社への大きな被害はないも
のの地域には大きな爪痕を残
しております。

顧みますれば 当会は昭和
二十四年三月、先の大東亜戦争
の敗戦後、国土と国民は慘憺た
る打撃を受け、その後の占領政
策により人心の荒廃も著しい
最中先輩諸賢が国家再興と皇
統護持の決意のもと優れた叡
智と篤い情熱を結集して創立
されました。とくに十一月の活
動では富山県神道青年会の皆
様とも共に汗をながし親しく
谊を結ぶことが出来ました。

輪島への出発前先輩神職のひ
とりから、十四年前、石川神青
が東日本大震災後すぐに雪道
のなか、トラック一杯にガソリ
ンを積んで駆けつけて戴いた
話を伺いました。その上で臨
んだ往復一、六〇〇キロメート
ルの旅路は、私自身、今でも忘
れることが出来ません。

この五年を振り返ると、新
型感染症の感染爆発により日
常が一変、暗い閉塞した日々が
始まつたことは今更申し上げ
るまでもありません。当会にお
いても事業の中止決定がいつ
しか活動になりかけ、ひたすら
無念のときを過ごしました。
そんなとき新たなこころみと
して、教職兼業の青年会員を導
入とした公立中学校における
「装束着装体験講義」を実施し
ました。これは社会科歴史の平
安時代の衣・食・住について、
青年神職が教壇に立ち講義し
中でも衣に焦点をあて、会員各
神社の装束を用いて解説、實際
に着装を体験してもらう活動
です。令和三年十一月より本
までに県内公立中学校七校
受講生徒約七〇〇名の実績は
大きな自信となりました。

また神道政治連盟岩手県本
部青年隊においては、歴代隊長
をはじめ先輩隊員から現在に
至る活動が認められ、昨年三月
に自由民主党青年局より表彰
の栄を賜りました。あらためて
先輩諸兄姉のこれまでの御勞
致します、全国役員の皆様、そ
して東北六県神道青年協議会
会長 大鳥居良人様をはじめと
して東北六県神道青年協議会
をうけ、協議の末、創立七十五
周年式典の延期を決定しまし
た。十四年前に東日本大震災を

苦に深く敬意を表する次第です。

その他 受け継いできており

ます例年の活動においても昨

年五月より順次実施し今日に

至つてはいる次第であります。多

くの事業は先輩から受け継ぎ

ながらも、その時代に合わせ改

善を加え実施し、今日に至つて

おりますが、それは単に事業を

行なうことが目的ではなく、その

志を受け継ぎ、次世代に伝えて

いくことこそが要であります。

我々岩手県神道青年会々員

一同は、これからも各々研鑽を

積み、常に課題・問題に対し当

事者意識をもち、実践につとめ

て、愚直に青年神職「尖兵」と

しての在り方と向き合つてま

りますことを御誓い申し上

げますとともに、皆様には今後

とも変わらぬ御指導御鞭撻を

・記念事業

賜ります様お願いを申し上げ、

甚だ簡単ではありますが会長

退任のご挨拶と致します

令和五年秋、岩手県内の宮司様はじめ、神職の皆様にご協力を仰ぎ、県内一〇三社から御朱印を提供いただき、令員が展示パネルを制作、令

岩手県神道青年会 記念事業 創立七十五周年

和六年二月十一日、岩手県神社庁のご協力のもと、岩手県公会堂で開催された「建国記念の日岩手県民奉祝大会」に於いて「第一回岩手県神社御朱印展」を開催、同年八月二十三日花巻市渡温泉での「岩

手県神社関係者大会」に於いて第二回、本年の建国記念日にも岩手県公会堂での「岩手県奉祝大会」に於いて第三回の御朱印展を開催した。

開催時には、能登半島地震への募金活動も行つた。

この事業については、継続事業として、対外的な開催を計画している。

今後、展示内容の拡大と、神社検索サイトの活用も視野に入れ開催を進める予定。



・記念式典並祝賀会を開催
令和七年二月二十七日、盛岡八幡宮參集殿に於いて、創立七十五周年記念式典を開催し、岩手県神社庁坂本庁長様、神道青年全国協議会大鳥居会長様をはじめ、全国より多くの方々のご臨席を賜り、記念式典を開催した。

式典後同会場にて、記念祝賀会を開催し、平賀参事様自らのご出演により、「上根子神楽」をご披露いただいた。また、谷藤会長が所属する、「門さんさ踊り保存会」もご披露いただき、大いに盛り上がりを見せた。



当初、令和六年三月に記念式典の開催が予定されていたが、一年間の延期を経ての開催となつた。記念事業を進めにあたり、ご理解ご協力を賜りました先輩方に心より感謝申し上げます。



岩手県神道青年会 創立七十五周年記念事業
御賛者御芳名

岩手県神社庁長	坂本	広行 様	株秋江 代表取締役
盛岡市支部長	三澤	弘高 様	秋江 弘一 様
岩手郡支部長	高橋	数馬 様	(名)吾妻嶺酒店 蔵元
紫波支部長	八重嶋	雄光 様	佐藤 元 様
花巻支部長	稻田	典之 様	株阿部 取締役社長
北上市和賀郡支部長	伊勢	義人 様	阿部 英勝 様
奥州支部長	山下	明 様	井筒授与品店
江刺支部長	及川	幸亀 様	代表取締役社長
西磐井支部長	佐藤	一伯 様	國政 典昭 様
東磐井支部長	多田	宏典 様	株井筒装束店
久慈支部長	戸田	頼申 様	代表取締役社長
気仙支部長	長谷川	瑞彦 様	佐織 鉄郎 様
上閉伊支部長	新里	明彦 様	神路社 東日本営業所
二戸支部長	都澤	昇 様	大平 佳樹 様
第十二代会長	戸田	明彦 様	京都奉製株
久慈支部長	新里	昇 様	グリーン産商株
第十六代会長	荒木	真幸 様	長谷川 義貢 様
第十七代会長	長谷川	瑞彦 様	常陸神宝株
第十八代会長	長谷川	勝則 様	(有)藤村仏具本店
第十九代会長	稻田	典之 様	(有)三澤印刷
第二十代会長	稻田	史穂 様	三澤 弘高 様
第二十一代会長	坂本	広行 様	株長谷川製作所
第二十三代会長	坂本	明彦 様	代表取締役
第二十五代会長	瀬川	一郎 様	長谷川 義貢 様
第二十七代会長	新里	明彦 様	常陸神宝株
第二十九代会長	荒木	道明 様	(有)藤村仏具本店
第三十代会長	吉田	浩明 様	(有)三澤印刷
第二十八代会長	山下	明馬 様	三澤 弘高 様
第二十七代会長	吉田	政憲 様	株秋江 代表取締役
第二十九代会長	高橋	浩明 様	三澤 弘高 様
第三十代会長	高橋	明馬 様	三澤 弘高 様

衷心より御礼申し上げます。
上記の他多数のお祝いを頂きました。

令和七年三月十一日、東北六県神道青年協議会は「東日本大震災物故者慰靈祭並びに復興祈願祭」を岩手県宮古市の宮古市魚市場で斎行した。

東日本大震災物故者慰靈祭
並びに復興祈願祭



同会では平成二十六年以降毎年、物故者慰靈祭をおこなつてきたが、発災十年目を迎へた令和三年以降は隔年に変更。四年目となる今回は、岩手県神道青年会が主管し、東北六県神青協会員五十五人をはじめ、来賓として岩手県神社庁関係者や神道青年全国協議会役員・歴代会長、東北六県神青協顧問会な

四十人、また地元の漁港関係者や一般の人などが参集した。

午後二時四十分、斎主以下祭員が魚市場内に舗設した斎場へと参進。地震発生時刻である二時四十六分にあわせて、震災で亡くなられた方々に黙祷を捧げた。



大祓詞奏上、修祓、招靈、献饌に続いて斎主が祭詞を奏上。慰靈の誠を捧げ災害からの復興を祈る「光舞」を岩手県神道青年会会員が伶人、青森県神道青年会会員が舞人を務めて奉奏した。



次に、地元に伝わる郷土芸能「黒森神楽」（国指定重要無形民俗文化財）の奉納があり、黒森神楽保存会が「權現様」と呼ばれる獅子頭を奉じて演舞。その後、斎主をはじめ岩手県神社庁の坂本広行庁長、神道青年全協議会会长、宮古漁業協同組合の代表理事組合長らが玉串を奉り拝礼した。

祭典終了後には、主催者を代表して佐山崇会長が挨拶し「会場となつた宮古市では、震災で死者・行方不明者五百人以上という被害があつた。宮古市をはじめ未だ行方の分からぬ

方々が一日でも早く家族のもとに帰されることを祈りつつ、御靈の平安を祈念した」と述懐。「神職の本分」として「祈ること」の重要性に触れつつ「今後も震災を風化させることのないよう、祈り続けていきたい」と固い決意を述べた。

また、来賓の坂本庁長、神道青年全国協議会会长なども挨拶。さまざまな思いが語られるなか、十四年前の景色やその後の復興状況についての所感、また今後について「地元の住民や亡くなつた御靈に寄り添いながら、慰靈の誠を捧げ、復興を願い続けて次世代に繋げていくことが重要」といった言葉もあつた。



方々が一日でも早く家族のもとに帰されることを祈りつつ、御靈の平安を祈念した」と述懐。

県新政連青年隊 自民党本部より表彰



盛岡少年刑務所並
盛岡少年院収穫感謝祭

岩手県神社庁を通じ教誨活動の一環として依頼を受け、盛岡少年刑務所、盛岡少年院の収穫感謝祭を奉仕した。

・盛岡少年刑務所

令和五年十月二十八日、谷藤会長以下三名の奉仕により執行。職員二名、受刑者三名が参列、三澤先生による教誨が説かれた。

また、令和六年十月二十六日、谷藤会長以下三名の奉仕により執行。担当職員二名、受刑者二名が参列、一條先生による教誨が説かれた。

・盛岡少年院

令和五年十一月二十九日(水)

谷藤会長以下三名の奉仕により執行。参列者は担当職員二名、受刑者三名、祭儀奉仕の後、三澤先生による教誨が説かれた。

また、令和六年十月二十六日

(土)盛岡少年刑務所の収穫感謝祭を谷藤会長以下三名の奉仕により執行した。参列者は担当職員二名、受刑者二名、祭儀奉仕の後、一條先生による教誨が説かれた。

第五回平安装束着装体験授業

令和六年二月十三日、奥州

市立前沢中学校一年生を対象に、座学だけでは得られない平安時代の風俗への理解を深めるため、装束の着装体験授業が行われた。当会では、装束体験を通して神社への興味関心を得られるることを期待し、授業に協力している。本年は岩手県立前沢中学校で授業協力を行つた。

体験前に資料集や板書などを

用いて装束の形、着装の手順などを説明、実際に着装の体験となつた。学生たちは初めてながらも会員の手助けを受けながら、互いに着装させあつた。衣冠や狩衣、水干、巫女装束など普段身に着けることのない装束に身を包み、教科書や昔話で目にする姿を楽しみつつ、洋服との違いや、着装する事の難しさ、身に着けて生活することの大変さに理解を深めていた。



令和七年度定期総会開催

議事

- 1、令和六年度会務報告の件
- 2、令和六年度收支決算の件
- 3、役員改選の件
- 4、令和七年度活動方針(案)の件
- 5、令和七年度予算(案)の件



坂本府長より激励賜る

平安装束体験授業 全国表彰

令和七年四月二十二日、神社本

庁にて開催された神道青年全国協議会定例総会において「教化事業賞」を受賞しました。

令和七年度定期総会は五月十七日(月)午後四時三十分より神社庁を会場に、坂本府長を来賓に迎え開催された。

冒頭、坂本府長より、斯界を

取り巻く環境は厳しい状況にあるが、活発な会議と清新な心を以て斯界の尖兵として失敗を恐れず取り組むこと、新たな取り組みに挑戦し続けていくことを期待する旨ご祝辞を賜った。

総会後は場所を移し懇親会が開催され坂本府長を来賓に迎え会員同士の懇親を深めた。



第十一回 親子禊練成会開催

活動報告 自 令和四年三月
至 令和五年四月

四月四日	岩手県神社庁神殿例祭参列 (岩手県神社庁神殿)
四月十三日	令和四年東北六県神道青年協議会 第六回役員会(リモート形式)
四月二十三日	神道青年全国協議会第七十三回定 例総会(神社本庁※リモート併設)
四月二十四日	岩手護國神社春季慰靈大祭助勢
五月六日	令和四年東北六県神道青年協議会 第七回役員会(リモート形式)
五月十三日	沖縄本土復帰五十周年記念(国土 平安祈願祭(岩手県神社庁神殿))
五月十五日	令和四年度定期総会(岩手県神社庁)
五月二十三日	神青協「デジタル社会における神社の在 り方を学ぶ」ウェブ研修会(リモート形式)
五月二十九日	沖縄本土復帰五十周年記念(国土 平安祈願祭(各奉務神社))
六月二十日	令和四年度定期総会(岩手県神社庁)
六月二日	祭祀舞内覧会参加(小野照崎神社)
六月十五日	事業援助金巡回(上閉伊支部)
六月十五日	第六回役員会(横山八幡宮)
七月四日	神青協「デジタル社会における神社の在 り方を学ぶ」ウェブ研修会(リモート形式)
七月四日	元岩手県神社長荒神社名譽宮司 西館勲氏(JA山田通夜会館)葬場祭奉仕
七月十一日	令和四年東北六県神道青年協議会 禊鍊成会(福島県いわき市「いわい藤間ホテル里」)
七月十一日	第十五回役員会(北上和賀郡支 部、江刺支部、奥州支部、金巡回(北上和賀郡支 部))

八月二十四日	令和四年東北六県神道青年協議会 第九回役員会(リモート形式)
八月三十日	事業発表活動(渡り温泉ホテルさつき)
八月三十一日	令和四年神道青年全国協議会夏季 セミナー(神社本庁)
九月二日	「神職のための神宮研修会」 ウエブ研修会(リモート形式)
九月二十一日	東北六県神道青年協議会親睦事業 (岩手県神社庁 リモート形式)
九月二十二日	崇友会主催「米内紘正後援会」 (水沢グランドホテル)
九月二十九日	事業援助金巡回(宮古市下閉伊郡支 部、久慈支部、九戸支部、二戸支部)
十月十二日	平安装束着装体験①(岩手大学附属中学校)
十月十三日	平安装束着装体験②(奥州市立前沢中学校)
十月二十四日	令和四年東北六県神道青年協議会 第十回役員会(秋田県秋田市協同大町ビル) (リモート併設)
十月二十九日	山形県山形市道青年会創立五十周年記 念式典(盛岡少年刑務所)
十一月一日	十月中旬(山形県山形市ホテルキヤッスル) 衆議院議員藤原たかし国政報告会
十一月十七日	十一月二十九日(山形県山形市ホテルキヤッスル) 冲縄戦全戦没者慰靈祭(沖縄県護国神社)
十一月二十九日	十一月三十日(山形県山形市ホテルキヤッスル) 神道青年全国協議会臨時総会
十一月二十九日	十一月三十日(山形県山形市ホテルキヤッスル) (神社本庁 リモート併設)

十一月二十四日	令和四年東北六県神道青年協議会 顧問会(福島県郡山市 ホテルブリシード郡山)
十一月二十九日	令和四年東北六県神道青年協議会 第十二回役員会(リモート形式)
十一月三十日	令和五年東北六県神道青年協議会 第十二回役員会(リモート形式)
十二月七日	平安装束体験③(奥州市立前沢中学校)
十二月十四日	臨時総会(熊野神社)
十二月二十一日	令和四年東北六県神道青年協議会 会員新年会(大船渡温泉)
一月三十一日	令和五年東北六県神道青年協議会 第十二回役員会(リモート形式)
二月十四日	第二十二回神道政治連盟時局対策 会議(自民党本部)
二月二十二日	平安装束体験④(一関市立東山中学校)
二月二十九日	新祭祀舞研修会(宮城県神社庁)
三月三日	第三回神道青年全国協議会中央研修会 (徳島県徳島市 德島グランヴィリオ才木ホテル)
三月八日	新祭祀舞研修会(宮城県神社庁)
三月九日	山形県山形市遊学館
三月九日	神道青年全国協議会中央研修会 (徳島県徳島市 德島グランヴィリオ才木ホテル)
三月二十三日	山形県山形市遊学館
三月二十四日	東北六県神道青年協議会東日本 大震災物故者慰靈祭(宮城県石巻市 鹿島御兒神社)
三月二十三日	神政連役員会(岩手県神社庁)
三月二十四日	神政連役員会(岩手県神社庁)
三月二十五日	金ヶ崎神社本殿遷座祭(金ヶ崎神社)
三月二十八日	令和五年東北六県神道青年協議会 第十三回役員会(リモート形式)
三月二十九日	令和五年東北六県神道青年協議会 第十四回役員会(リモート形式)

F電 住 発 所 行 A X 話 所 行 ○ 一九八一—三一—〇三〇